

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	やまぐち としかつ 山口 利勝	所属	山口福祉文化大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 14 名（うち認定心理士 2 名） 非会員 3 名（うち認定心理士 0 名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>本研究会は、難聴者のさまざまな心理学的問題について検討することを目的としている。</p> <p>難聴者は、日本において潜在的には数百万から1千万人程度はいると推測されている。しかし、当事者が問題を自覚していない、あるいは周囲に明らかにしていないことから正確な実態が明らかでない。その上、難聴に関わる知識が一般に普及していないために、難聴者の抱えるさまざまな問題が十分に理解されていないという問題がある。</p> <p>そこで、本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分ではないという現実から生じる心理学的問題について考え、難聴者に対する心理学的研究の方向を探ることを大きな目的としている。研究会のメンバーは、障害児教育、知覚心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学などさまざまな領域で難聴について研究をしている研究者が主なメンバーである。</p> <p>本年度は、昨年度に引きつづきメーリングリストを通じて会員同士が議論、情報交換を行い、難聴者がかかえる様々な心理学的問題について考えた。活動の成果は、2013年度日本心理学会の公募シンポジウム「難聴者のメンタルヘルスについて考える」にて報告した。公募シンポジウムには、学会開催地である北海道在住の中途失聴・難聴者協会の会員も複数名参加した。当事者とともに難聴にまつわるさまざまな問題について情報交換、意見を行うことができた。</p> <p>今後は、本年度の研究会成果をふまえて、さらに難聴者を取りまく問題について検討をしていく。特に、全聾の聴覚障害を持つ作曲者の作品がゴーストライターによるものであったという一連の問題の報道の仕方から、難聴者についての理解が依然として乏しいこと、誤解があることが明らかになった。そこで、難聴者の理解についてどのような現状であるか、理解を深めるにはどうしたらよいかの具体的な対策を考え、その成果をシンポジウムで報告する予定である。</p>		

2014年 3月 31日

日本心理学会研究会 2013 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 研13001

助成金額 ¥20,000

年 月 日	項 目	金 額
2013年9月19日	非会員の公募シンポジウム登壇者予約参加登録料 1 名分	¥15,000
2013年9月19日	会員の同伴参加者当日参加登録料 3 名分	¥3,000
2013年9月18日	周辺機器代 (iPadアダプター) 1 点	¥3,080
2013年9月8日	書籍代 (2 冊)	¥3,210
2013年6月5日	郵送代 (ゆうぱっく : 文具の送付)	¥1,000
	支出合計	¥25,290